

2022年5月30日

音楽科

井上 幸一

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任 2021年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
専門	音楽理論	必修	1年前期	12名
専門	和声1	必修	1年後期	12名
専門	和声2	選択	2年前期	23名
専門	和声3	選択	2年後期	19名
専門	音楽キャリア3	選択	2年後期	10名
専門	音楽療法概論	選択	1年前期	9名
専門	音楽療法各論(基礎)	選択	1年後期	9名
専門	音楽療法各論(臨床)	選択	2年後期	2名
専門	音楽ボランティア実践論	選択	2年前期	2名
専門	音楽療法総合演習	選択	2年後期	3名
専門	音楽療法実習	選択	2年後期	2名
専門	事前事後指導	選択	2年後期	2名
専門	こども音楽療育概論	選択	1年前期	26名
専門	こども音楽療育演習	選択	1年後期	26名
専門	こども音楽療育実習	選択	2年前期	32名
専門	和声	選択	専攻科前期	5名
専門	音楽心理学	選択	専攻科後期	4名
教職	音楽科教育法	選択	1年後期	18名
教養	キャリアプログラム	必修	1年後期	22名

2. 教育の理念

音楽の理論に関わる理解と技術の修得に向け、向上心をもって持続的に取り組むことができるようになること、教職などの卒業後の職業に関わる専門性を高めるとともに、社会において主体的に活躍できる人材の育成を目標として教育活動を行っている。

3. 教育の方法

基礎的知識の修得については、当該科目の授業内容を基軸として関連科目及び関連領域との関わりから体系的に理解できるよう授業内容を構成している。技術の向上に向けては、基礎的知識との結びつきから修得できるように各種課題(実践的課題、プレゼンテーション、ディスカッション、協働的な取り組み等)を通して、課題解決力、コミュニケーション能力の向上を図るよう授業を計画している。また、オンライン授業においては、フィードバックされた情報を個々の学生の学習状況の把握や、授業展開に活用している。

4. 教育の成果

各授業における成果は、①ミニツツペーパー②小テスト③レポート④筆記試験及び実技試験の内容によって、知識の修得及び技術の向上の成果を確認している。また、⑤演習における各種課題⑥グループワークによる課題⑦実習施設の評価及び実習日誌によって、基礎的知識に裏付けされた実践的課題への応用力を確認している。さらに、学生の自己評価による学修チェックシートの結果から、2年間の学習成果の経年変化と教育効果を確認している。

5. 今後の目標

受講学生の深い理解につながる授業内容及び教授学習方法について検討を継続し、授業評価アンケートや、授業参観コメント等の学生と教員のフィードバックによる情報を活用し、より効果的な学習方法を探求したいと考える。また、各授業における成績評価については、ルーブリックを用いた評価や、関連科目間における成績の関連性と要因の検討を行い、今後の授業内容に活かしたい。